

サマー・バイブル・セミナー

- JECの”恵みの特徴”の継承・深化・発展を期して...
エリクソンの『キリスト教神学』の視点から -

日時: 2003.7.13

場所: 西宮福音教会

安黒務

<http://www.aguro.jp/>
aguro@mth.biglobe.ne.jp

What is J E C ?

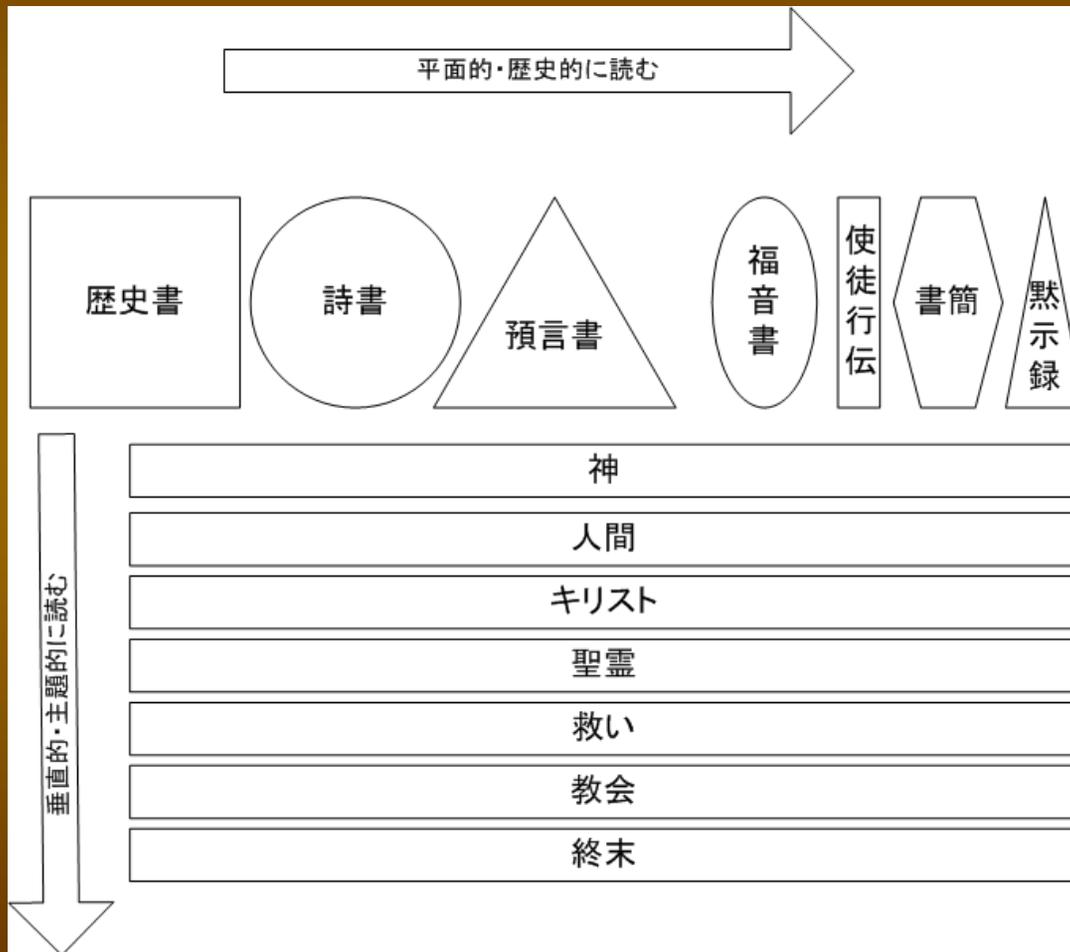
- よくわからない。
- Why ? ...よく分からないのか？
- 簡易信条主義型の教会
- 我喜屋師：J E C のアイデンティティづくり
- みことば信仰・十字架信仰・聖霊信仰
- 歴史神学軸（横軸）と組織神学軸（縦軸）で説明していく

JECにおける神学的取り組み

- スウェーデン・バプテスト系オレブロ・ミッション宣教師 - 開拓宣教と教会形成に多忙 - 単純な福音伝道メッセージ
- 第一世代の日本人教職者 - ホーリネス系の塩屋にある関西聖書神学校で学ばれる - 敬虔主義運動の遺産 - 『キリスト者の標準』
- スンベリ宣教師 - オレブロ神学校で学ばれず - 米国(バイブル・スクール)で聖書を丁寧に学ばれた後、来日 - 関西聖書学院 - 手探りの実践的聖書教育 - 初期は外部の講師にも依頼 - ザウアー『世界の救いの黎明』
- 高橋師 - KBI卒 - 改革派神学校聴講 - 聖書神学舎で学ばれる - ヘンリー・シーセン「組織神学」講義
- 課題として - 敬虔主義運動の遺産『十字架と聖霊』と正統主義神学『組織神学』の接合(アーティキュレーション)
- 手順として、スウェーデン・バプテストの伝統を継承・深化・発展させている『エリクソン神学』の透明性の高い神学形成手順を通して、正統主義神学の正統的实践としての敬虔主義運動を関連づけ
- ここをきちんとしていかないと、JECの良き伝統と遺産の継承・深化・発展は難しい - 宣教便宜主義(プラグマティズム)に陥る

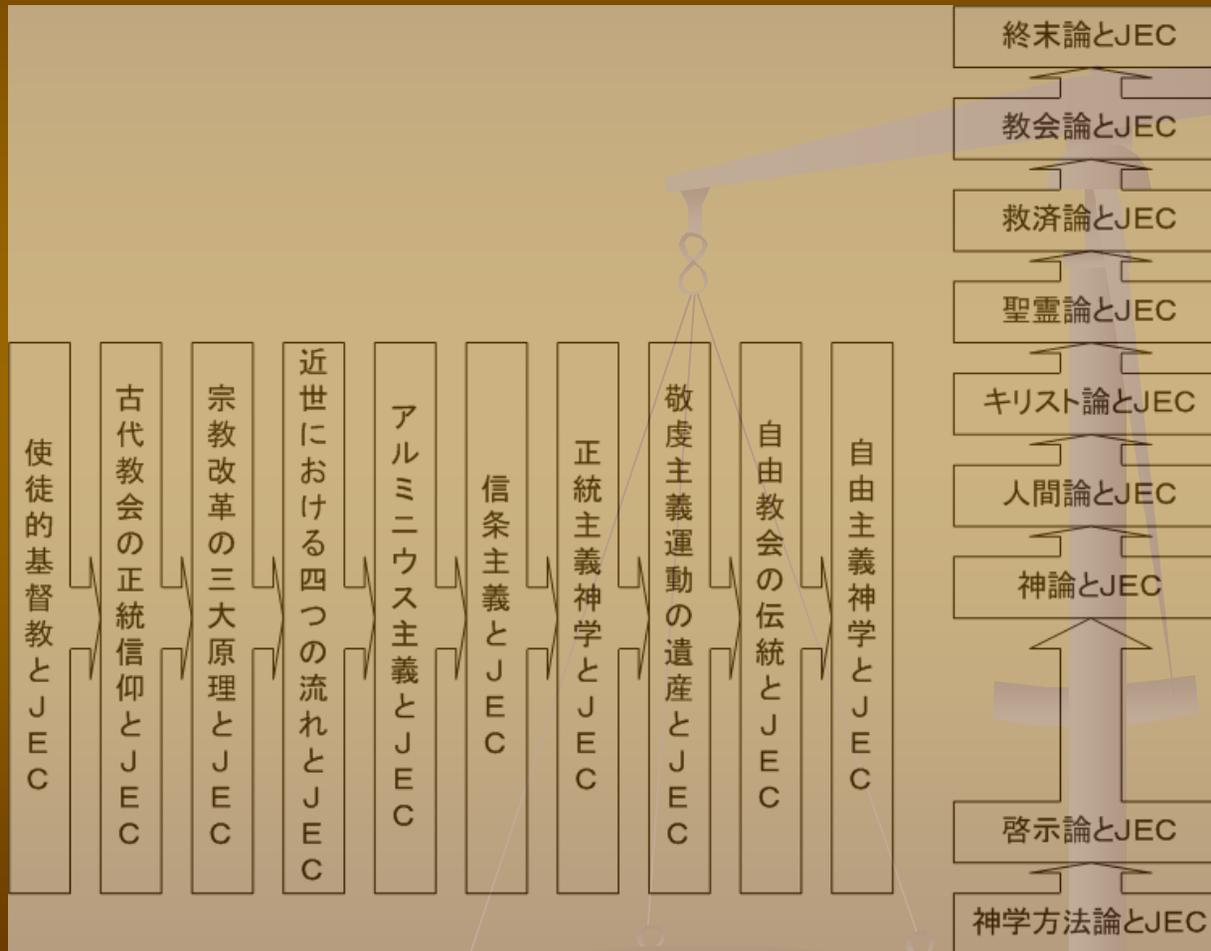
エリクソンの神学を学ぶとは

平面的読み方から、立体的読み方へ

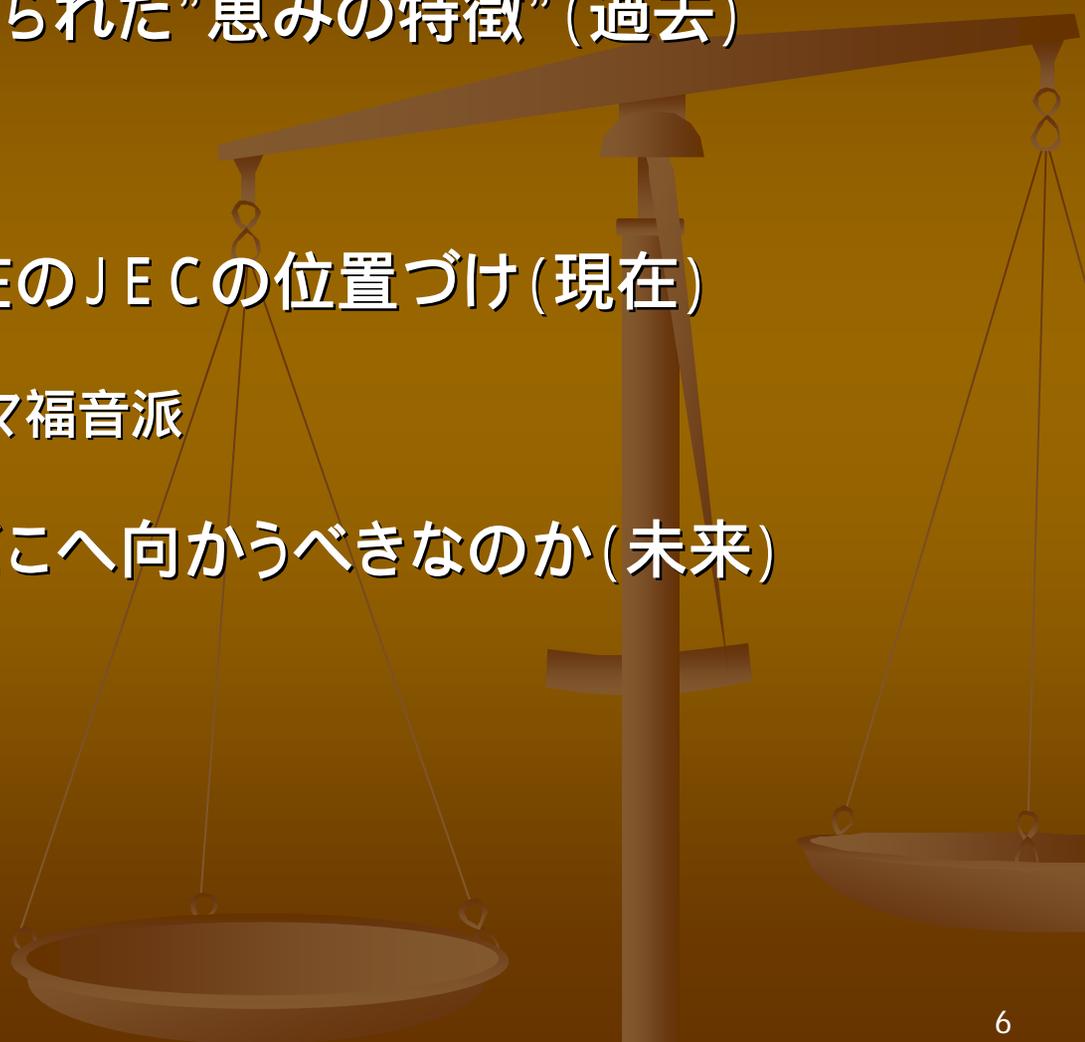


歴史神学の座標軸と組織神学の座標軸から

- JECの歴史と神学を分解・補修・交換し、バージョンアップしていく -



JECの過去・現在・未来



1. JECにこれまで与えられた”恵みの特徴”(過去)
 1. 御言葉信仰
 2. 十字架信仰
 3. 聖霊信仰
2. 福音派における現在のJECの位置づけ(現在)
 1. 福音派とは
 2. 保守福音派とカリスマ福音派
 3. 架け橋としてのJEC
3. 神学的に、JECはどこへ向かうべきなのか(未来)
 1. 聖書の適格性
 2. 正統的公同性
 3. 現代的適応性
 4. 自己革新性

我喜屋師の理解

十字架信仰

聖霊信仰



御言葉信仰

十字架の恵み(死・葬り・復活 + 昇天・着座)を
聖霊が
御言葉の約束通りに
私たちに客観的立場を提供し、
主観的に体験させてくださる。

1. 御言葉信仰：聖書論とJEC

1. 我喜屋師の「御言葉信仰」

1. 敬虔主義運動の遺産としての表現
2. ウォッチマン・ニー『キリスト者の標準・行程』

2. 福音派一般での「御言葉信仰」

1. 自由主義：リベラル派の聖書観
2. 根本主義：ファンダメンタルの聖書観
3. 福音主義：エバンジェリカルの聖書観

2. 十字架信仰：聖化論とJEC

1. 我喜屋師の「十字架信仰」

1. 塩屋の神学校の伝統：危機主義
2. オレプロ・ミッションの伝統：漸進主義
3. ケズィックの流れ - ウォッチマン・ニーによる整理：折衷主義

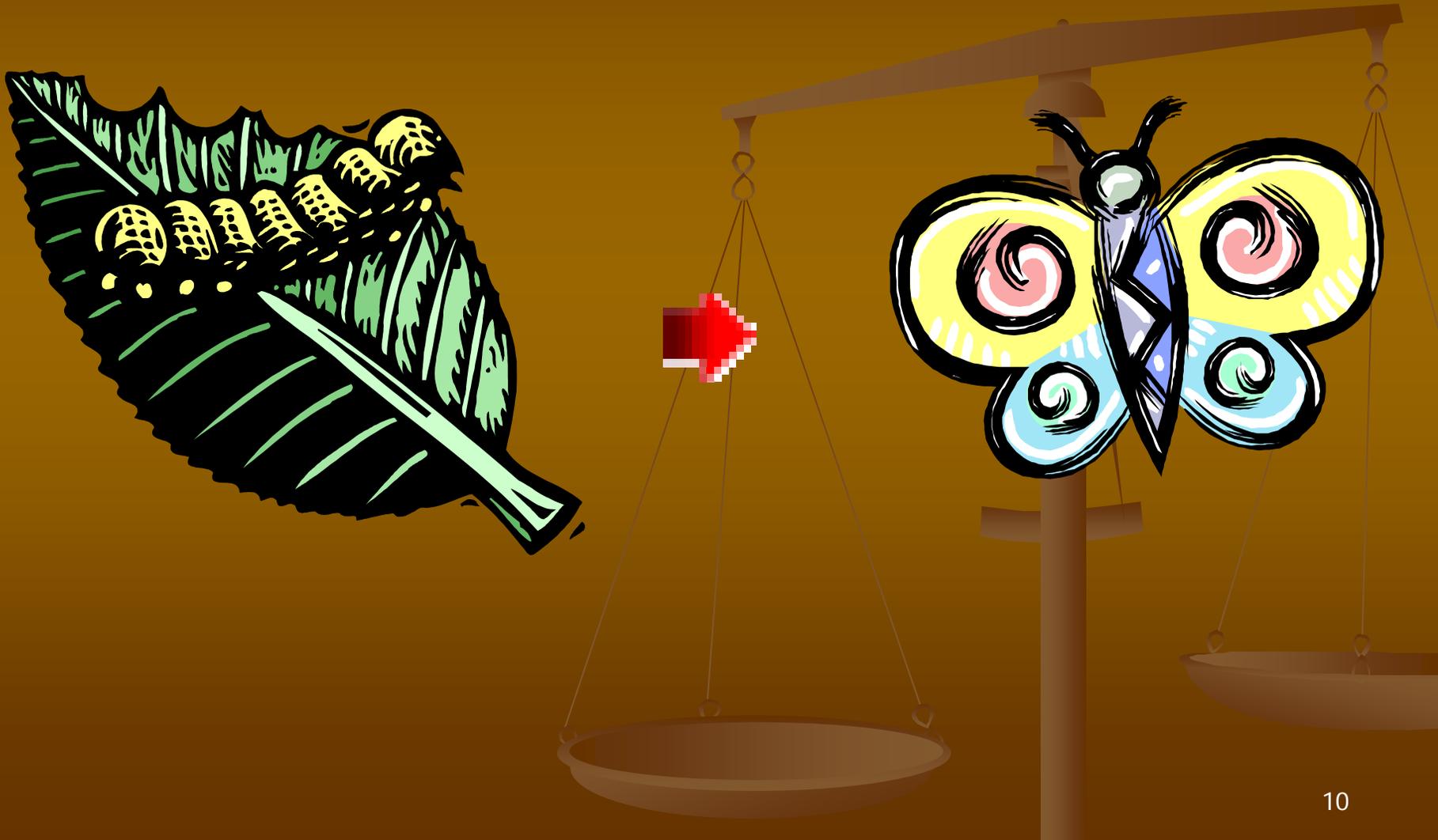
2. 歴史的背景

1. 義認 - 宗教改革運動：ルター、カルヴァン（16世紀）
2. 聖化 - 敬虔主義運動：ウェスレー（18世紀）

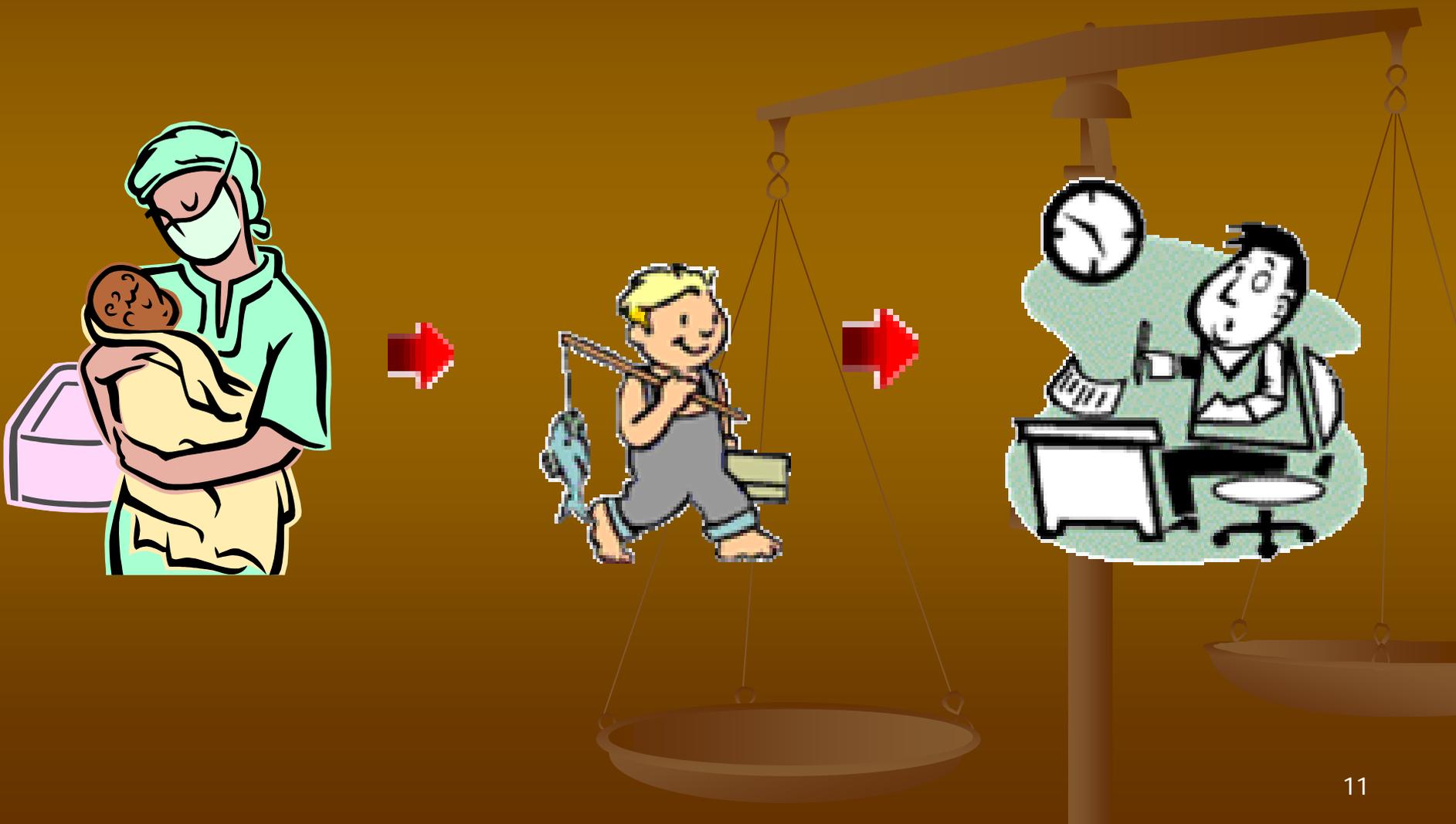
3. JECの特徴

1. 宗教改革の真理、その体系化「正統主義神学」
2. 正統的教理の正統的実践としての「敬虔主義運動」
3. 漸進主義をベースにして危機的強調

危機主義理解



漸進主義理解



3 . 聖霊信仰 : 聖霊論とJ E C

1. 我喜屋師の聖霊信仰

1. ペンテコステ運動に続く
2. 伝統的教派内でのカリスマ運動の影響
3. 体験強調のみでなく、理解を重視

2. キリストのみわざとクリスチャンの立場・経験(ウォッチマン・ニー)

1. キリストの死・葬り・復活・昇天・着座・聖霊の注ぎ
2. 「キリストにある」「キリストと共に」 - 包括的用語
3. キリストの立場 = クリスチャンの立場
4. その客観的立場にたって、主観的な「聖霊の満たし」を受ける

3. 異言についての理解(J. D. G. ダン)

1. ルカ的理解 - 上から、突発的に - 酔っているのではない(ペンテコステ派)
2. パウロ的理解 - 内から、自然に - アバ意識、霊による賛美・祈り(カリスマ派)

4. 聖霊の満たしの目的(H.ベルコフ)

1. 御霊の実 - 聖化 - 品性・人格
2. 御霊の賜物 - 召命 - 機能・貢献

聖霊運動の流れ

カリスマ運動：
伝統的教派内での聖霊経験で、
その表現はそれぞれの教派的脈絡での多様性がある

20世紀中期

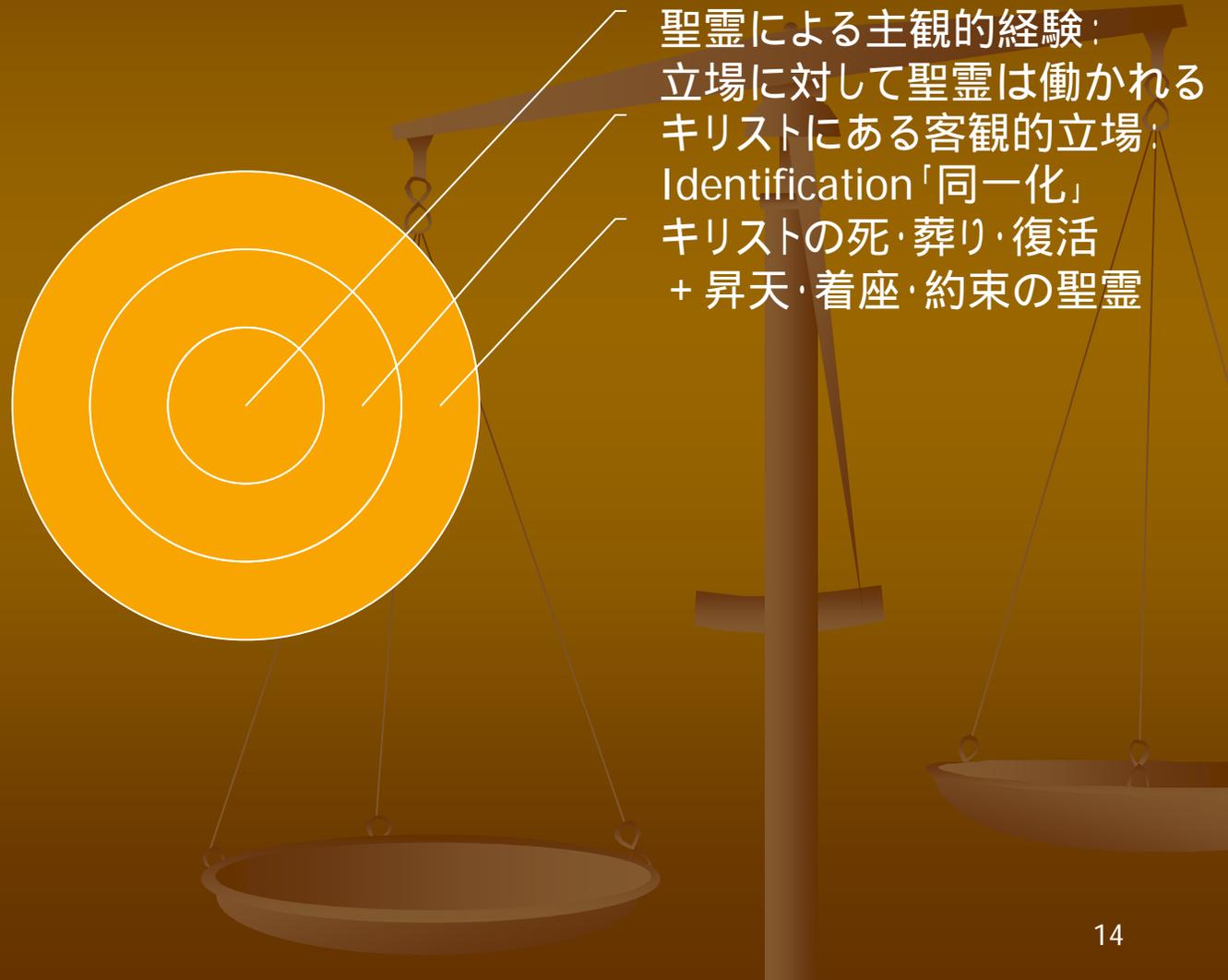
20世紀初期

20世紀後期

ペンテコステ運動：
異言を伴う聖霊のバプテスマ

第三の波の運動：
保守的な福音派内における
聖霊運動で、新生 = 聖霊のバプテスマとし、
聖霊の満たしの多様な経験に種々の賜物の
顕現を主張する

キリストにある“In Christ”



聖霊による主観的経験：
立場に対して聖霊は働かれる
キリストにある客観的立場：
Identification「同一化」
キリストの死・葬り・復活
+ 昇天・着座・約束の聖霊

靈的意識の同心円的關係

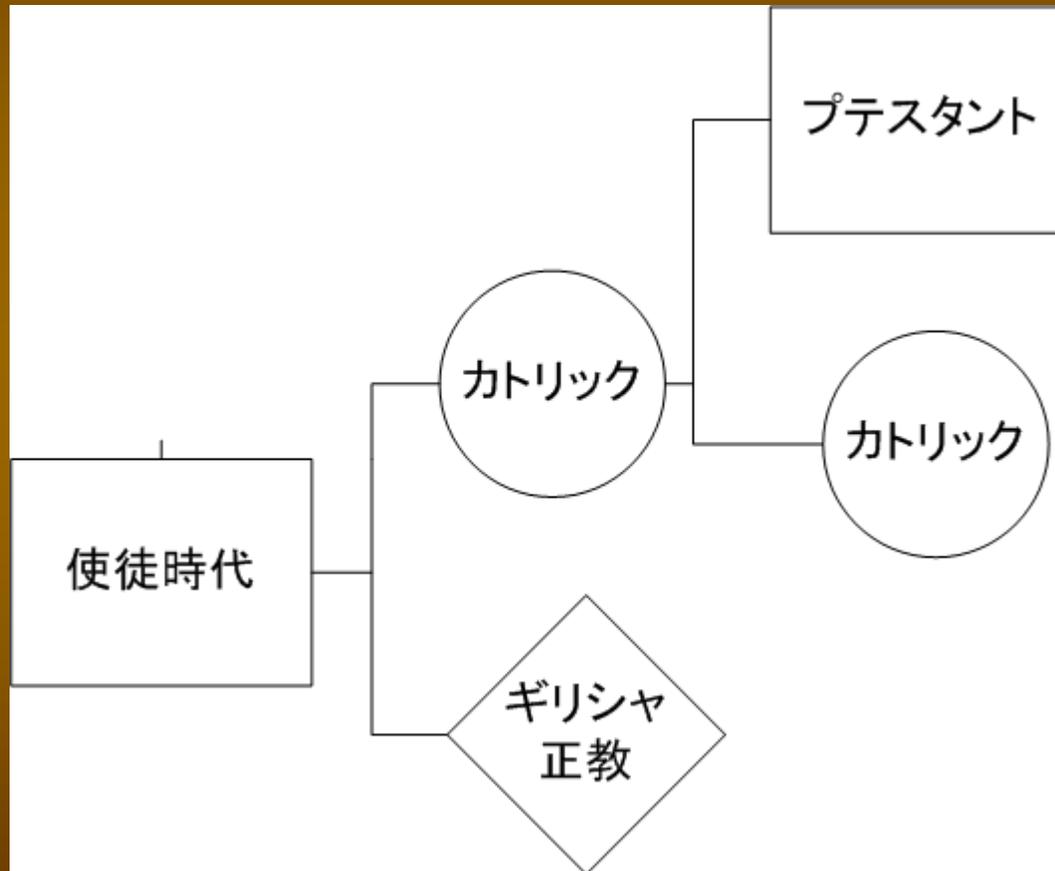


J. D. G. ダンの『イエスと御霊』に関する一考察

JECの位置づけ

1. 教会の歴史:木が枝分かれしていく過程
 1. 使徒的教会
 2. カトリック教会、ギリシャ正教会、プロテスタント教会
 3. プロテスタント教会:リベラル派とファンダメンタル派福音派
2. 福音派
 1. 世界福音同盟の経緯
 2. 日本福音同盟の経緯
 3. 日本リバイバル同盟の経緯
3. JECの位置づけ
 1. エバンジェリカル神学を大切にするJEC
 2. その基盤にたって、カリスマ的経験を許容するJEC

教会の歴史



福音同盟について

本来、あるべき姿・あるべき関係



NRA:
日本リバイバル同盟
JEA:
日本福音同盟
WEA:
世界福音同盟

福音派とは、
聖書を誤りなき神の言葉と信ずる
改革派からペンテコステ派までを含む連合体

福音主義神学とカリスマ的経験

カリスマ的経験：神学と体験のバランスと調和を重んじる穏健なカリスマの立場

実践神学軸：R.H.カルペッパー『カリスマ運動を考える』

聖書神学軸：J.D.G.ダン『イエスと御霊』

福音主義神学 = JECの神学的座標軸

歴史神学軸：宇田進『福音主義キリスト教と福音派』

組織神学軸：エリクソン『キリスト教神学』

聖書

JECは、どこへ？

1. JECのルーツとアイデンティティの同定

1. JEC 50周年記念小論文「JECの神学的座標軸を模索する - JECの過去・現在・未来を眺望して -」
2. JECニュース2002年連載「JECの源流と歴史的遺産」

2. その教理的・歴史的・霊的遺産を継承・深化・発展させる軌道を提示している包括的な神学書の選択

1. ミラード・J・エリクソン著『キリスト教神学』
2. その要約版の翻訳 + 解説の『キリスト教教理入門』ブックレット集
3. ICI出版のKBI・IBC講義(テープ、MD、CD - Rビデオ、DVD - Rビデオ)
4. ICIの電子メール講義『キリスト教教理入門』を毎日一段落ずつ、解説講義している
5. その他、ICI独自のカリキュラム準備中！(例：『福音を明確に聞けなかった人々の運命』『JECの神学：各論シリーズ - 例：JECの洗礼論・JECの聖餐論・JECの教会政治論...』)

3. エリクソン神学の特徴とJEC：JECと同じスウェーデン・バプテストのルーツ、最も尊敬されているエバンジェリカル

1. 聖書的適格性
2. 正統的公同性
3. 現代的適応性
4. 自己革新性

4. JECがこの軌道に乗って、バランスよく成長していけば、エバンジェリカルの中で最も尊敬される群れのひとつとなっていける

JECにおける三つの領域

教育は即効を期待することはできないが、発展のためには最も重要な要素である。人を育てる教会は成長し、指導者を養成する教団は発展する。



順調に発展している教団は、開拓伝道、教会形成、神学教育の三者が一つに溶け合い、有機的に行われている。

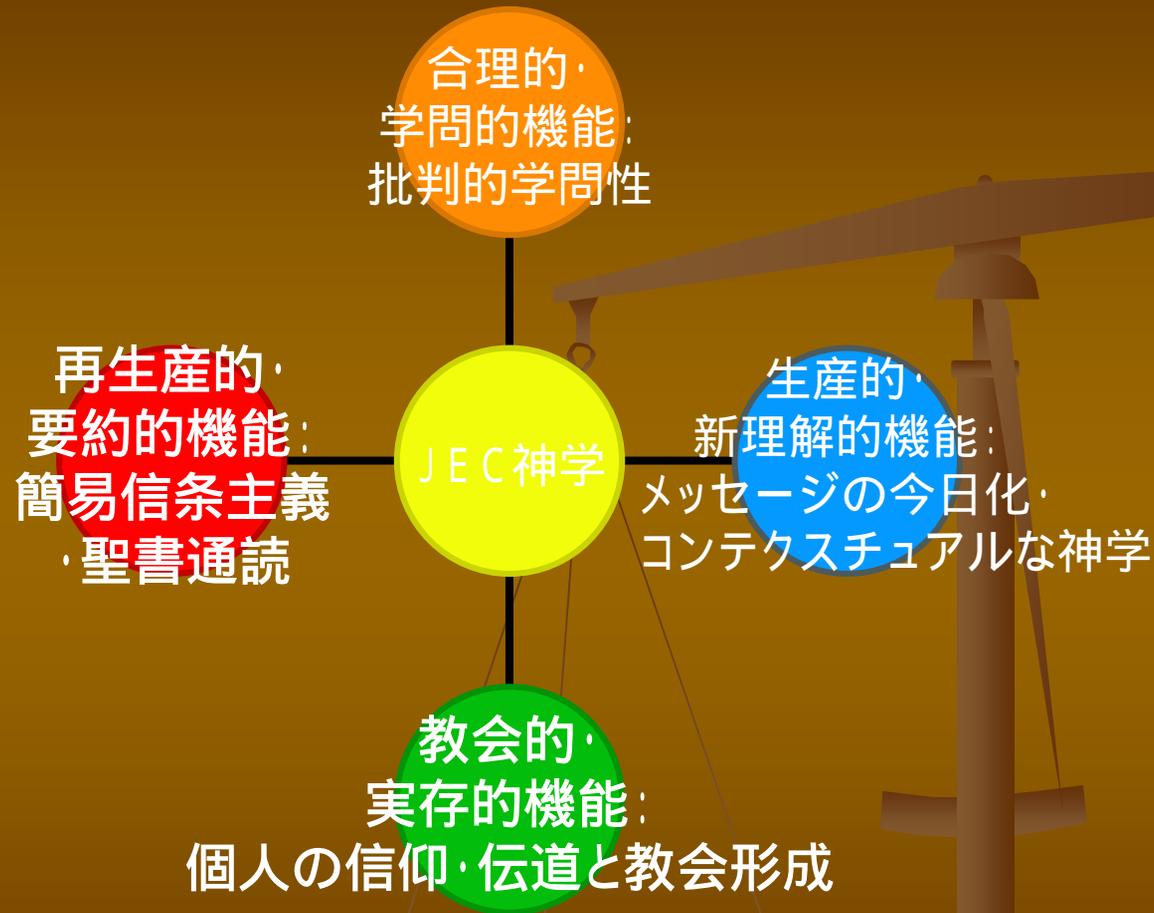
JECの信仰とエリクソンの神学



エリクソン神学をいかに学ぶか



JECの神学の方向性



福音主義神学会の設立：若い牧師や信徒に福音主義信仰の確信と神学への意欲を燃やさせたことによって、福音派の中に踏みとどまって研鑽する喜びを与えた。優秀な学生や神学徒の福音派からの流出が止まり、福音派の学的レベルの向上にもつなげた。